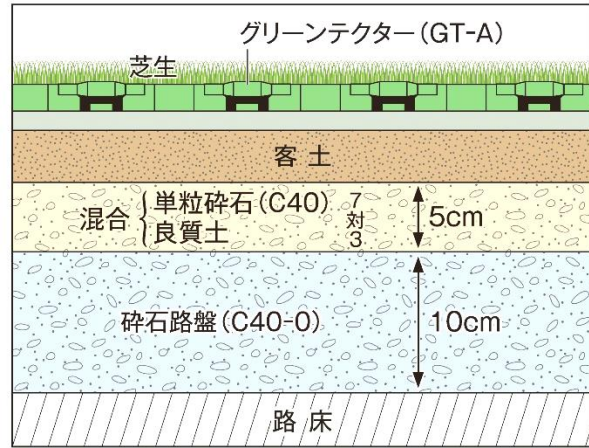


3. 簡易・乗用車駐車場用グリーンテクター（GT-A）の施工手順

（1）図のように碎石路盤の下層を碎石のみ、上層を単粒碎石と良質土を混合（7：3）し、十分転圧します。不陸調整は丁寧に行ってください。



- （2）その上から良質土を1cm程度覆土し、トンボ・竹ホウキなどで均一にならします。
- （3）芝を貼るか、または芝種をまきます（播種）。
- （4）グリーンテクターをネット状にしてカバーします（テクター組み付け手順はP2～P3参照）
- （5）テクターの中央及び四隅にあるピン穴にLピンを打ち込み、しっかりと固定します。
- （6）区画用点線として、ホワイトブロック（W-T）を使用してください。

- （注1）上記の方法は乗用車程度の軽い車両の簡易駐車場用（年数回程度）です。バス・トラックなどの重い車両や使用頻度の高い駐車場にはグリーンブロックを使用してください。
- （注2）播種方法が簡単ですが環境に合った播種工法と十分な管理をお勧めします。
- （注3）貼り芝の場合は、しっかりと転圧して混合土（単粒碎石）に芝生を押し込んでください。
- （注4）あらかじめ付いているLピン（4本/m²無償付属分）以外に、乗り入れ箇所などで最大16本/m²程度、追加してください（別売り）。

4. 芝生地の管理方法

グリーンテクターを敷設しても人やカートの踏圧から芝生を保護するだけで、芝生の成長が早まるや、より丈夫になるわけではありません。通常の芝生地同様に年3回程程度の施肥や適度の芝刈りを行ってください。自動・手動の芝刈り機が使用できます。

【お問合せ先】

株式会社 林物産
 本社：0294-35-2345
 東京：03-3553-7545



Ver. 181636

この度はグリーンテクターをご採用いただきありがとうございます。この取扱説明書はグリーンテクターの機能が効果的に発揮されるよう正しく施工していただくためのものです。よくお読みいただき目的を理解した上で施工してください。また施工中も注意点を確認しながら行ってください。

1. グリーンテクターの目的と用途

- （1）グリーンテクターは芝生広場に人やカート・自転車が自由に立ち入り出来るよう、上からカバーして芝生を保護する目的で開発された製品です。
- （2）芝生広場だけでなく、樹木根周り保護、駐輪場、傾斜地の土砂流出防止など多目的に応用できますが、施工方法は基本的に同じです。
- （3）路盤構造を変えることにより簡易・乗用車駐車場としても使用できます。
- （4）グリーンテクターは使用目的に応じ、各型式から最適のタイプをお選びください。

[グリーンテクターの種類]

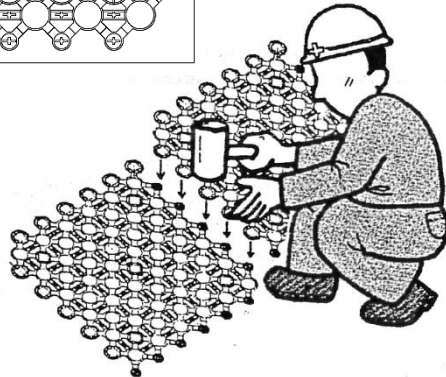
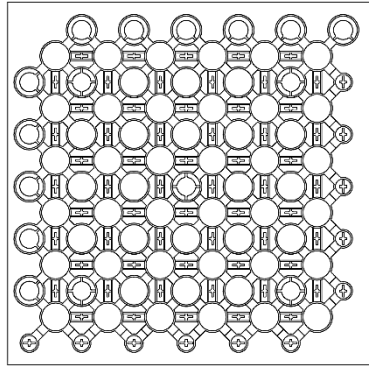
型式	特徴	最適用途
GT-EA（エラストマ）	柔らかくて滑りにくい	立ち入り自由の芝生広場など
GT-AL（ソフトタイプ）	ソフトで経済的	芝生のすべり台など
GT-A（ハードタイプ）	ハードで強靱	駐輪場、簡易・乗用車駐車場用
GT-EB、GT-BL	—	基本、ブロックテクターとの組合せ品

※グリーンテクター単体で使用する場合は、「A」が付く型番を推奨しています。

※他、GT-B型（ハードタイプ）があります。

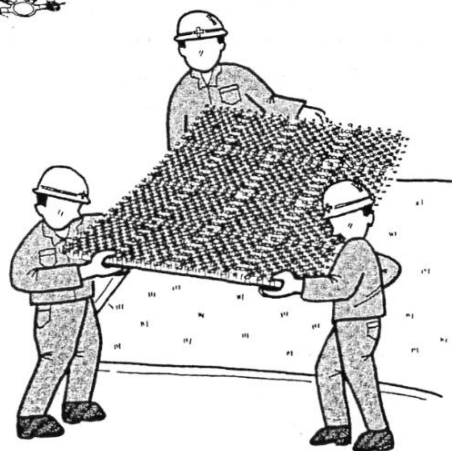
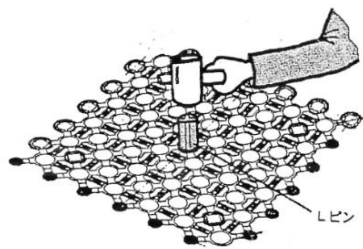
2. グリーンテクターの施工手順

(1) アスファルト舗装など平坦な場所で、オス・メスを足で踏みつけるかゴムハンマーで打圧してジョイントし、ある程度（引きずれる程度）の大きさのネット状にします。



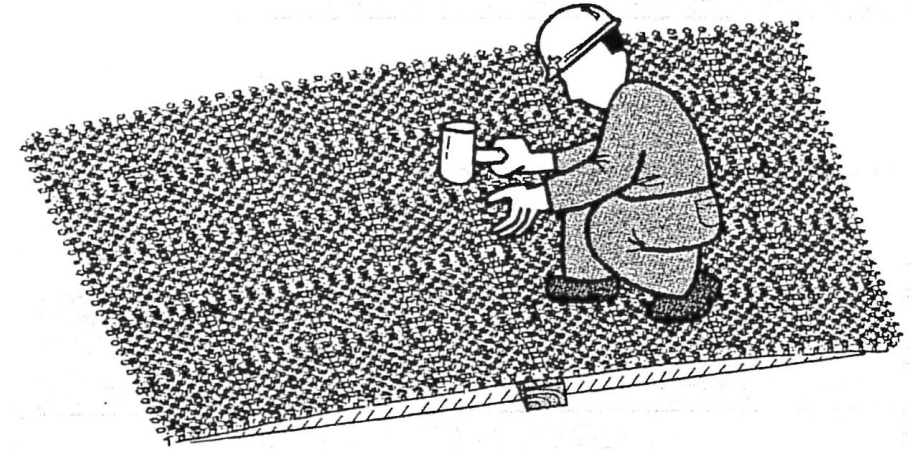
- (注1) グリーンテクターの表裏を間違えないでください。(オス部の上からメス部をジョイントすると間違いがありません。)
- (注2) テクター同士のジョイントは全てのオス・メスをパチッと音がするまでしっかりはめ込んでください。
- (注3) 施工場所の左上隅から施工し始めると常にオス部の上からメス部がジョイントすることが出来ます。この場合、図のように左上隅のコーナーにはテクターのメス部の交点に来るようにしてください。

(2) できあがったネットを芝生広場などの施工場所に移し、付属の L ピン（1m²につき4本無償で付いています）をピン穴に頭部までしっかり打ち込みます。端部などは状況に応じて L ピンを増量してください（追加のピンは別売りとなります）。（L ピンは1m²につき標準で、最大20本まで打てます）

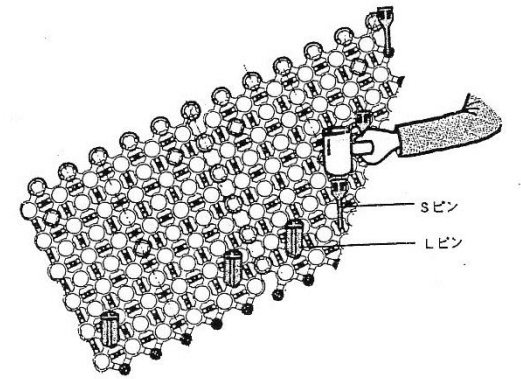
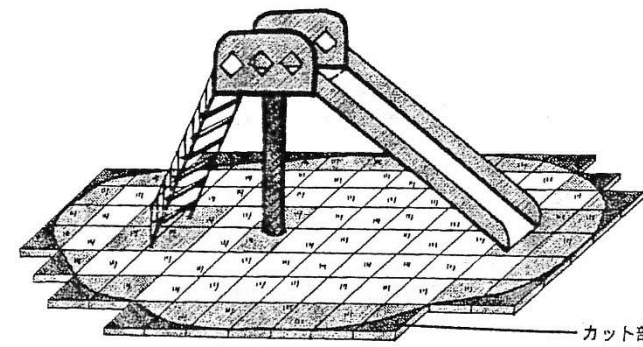


- (注1) 貼り芝後のローラー転圧は、グリーンテクター敷設後に行った方が不陸の解消や仕上り面が馴染みやすくなります。
- (注2) ピンは頭がピン穴に埋まるまでしっかり打ち込んでください。頭が飛び出していると、つまずいたりして危険です。
- (注3) プラスチックの性質上熱による膨張収縮が最大1.5%程度あります。冬季に施工する場合はテクターを引っ張り気味にして固定してください。

(3) ネット同士のジョイントはオス部の下に角材やコンパネなどをあてがいメス部を重ねて踏みつけるかゴムハンマーで叩きジョイントします。



(4) 外周部や遊具周りなど図のように敷設し、カット（端部加工）した場合にめくれ防止のため S ピン（別売り）を必要に応じ打ち込んでください。



(5) カット（端部加工）は剪定バサミで簡単に出来ます（GT-A、Bは、多少困難です）。カット部はめくれ防止のため L ピンの増量や S ピンを利用して、十分に押さえてください。

